

コロナ感染急拡大の中で新学期を迎える学校教育に係る緊急要請書

新型コロナウイルスによる感染急拡大により、県内医療機関では「現場感覚ではほぼ100%埋まっている」(8/19埼玉新聞)という危機的な状況で、重症者や重症リスクの高い患者以外は「原則自宅療養」とした政府の方針転換により、医療から見放されたともいえる「自宅療養者」「入院調整者」の割合が多くなるばかりです。その結果、「自宅療養中」に急変し、命の尊厳をも奪う在宅死の報道が全国的に増加しています。現状の感染爆発と医療崩壊は五輪の開催を強行したことによるものが具体的に現れているものであり、「緊急事態宣言」を発動すれば感染が収まるものではないことをあらわしています。

コロナ感染急拡大の中で小中学校はまもなく新学期を迎えます。デルタ株に置き換えられたコロナ感染症はワクチン未接種の子どもたちにも急速に伝播しています。26日から通常通りの教育活動を行うことはあまりにも危険です。子どもたちと教職員のいのちと健康が守られなければなりません。その立場から下記のことについて、緊急要請します。

記

1. 子どもが感染拡大の対象になっている状況を鑑みて、まずは夏休みを延長し、日常生活における感染抑止の方策について、各学校の実態や実情に応じて準備をする期間とすること。2学期スタートにあたり、分散登校等を積極的に取り入れ、感染を拡大させない具体的な方法を各学校に指導すること。また、感染リスクの高い給食のあり方について、特別に検討すること。
2. 中学校の部活動や小学校の課外活動、展覧会や作品展等について、当面の間は中止とすること。また、スポーツ少年団等の学校施設を利用した社会体育については、活動自粛を促すようにすること。
3. 学校をクラスター化させないために、定期的にPCR検査、または抗原検査を無償で行えるようにすること。泊を伴う学校行事に参加する児童生徒および教職員のPCR検査を無償で行えるような予算措置と人的配置を行うこと。
4. 子どもたちに関わる全ての教職員に対し、市内外の居住や勤務形態によって差別することなく、希望する教職員のワクチン優先接種を直ちに実施すること。
5. 教職員の感染防止のため、職員室の職員机間にアクリル板を設置する等の措置を講じること。

以上